別紙様式第1号別添

策定年月	令和5年1月
見直し年月	令和　年　月

麦・大豆国産化プラン

産地名：帯広市大正・大正町地区

（作成主体：合同会社　フォーテル北海道）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

麦　類

・現状 多雨による湿害や積算温度不足による生育障害の影響を受け、十勝の平均単収（580kg/10ａ）を下回る461kg/10ａとなっているため、効果的な湿害対策や生育障害への対策を行うことで、収穫量の増加や品質の向上が見込める。

・課題　1　湿害対策

対策①　サブソイラーを長い一本爪に

使用し心土破砕をより深い80cmの深さで施工し排水を促すようにする

対策②　深耕ロータリーを播種前に使用

サブソイラー後に一度40cmの深さまで土塊を砕く作業を深耕ロータリーを使用し施工する

・課題　2　生育障害

対策①　液肥（アミノ酸）散布

土壌診断に基づいて追肥の必要性と種類・時期を参考とし、最終的には茎数の確認を実施した上で三要素・アミノ酸の散布を実施する

対策②　追肥（生育不良対策）

基肥にロングを使用しているので前作では追肥・液肥の施用を実施しなく収穫量が地域と大きな差を生む結果となった。追肥の場合は倒伏のリスクを見極める為、春先の土壌分析や情報交換会等で得た情報も参考にしながら普及員と現地を確認し施工の判断をする

液肥（アミノ酸）施肥時期

追肥　生育不良の場合に施肥

※　麦・大豆生産における課題（湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等）を具体的に記載すること。
※　課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

麦　類

① **契約**
・実需者　株式会社　山本忠信商店と収穫前契約を締結

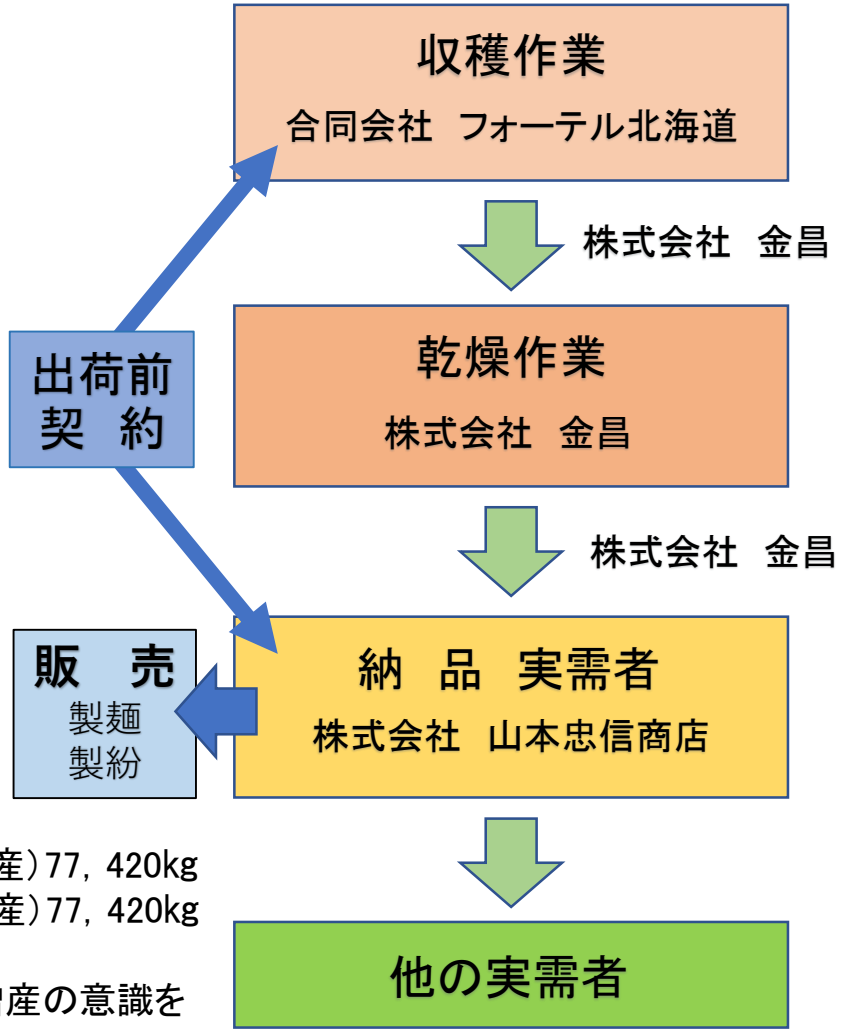
② **収穫**
・合同会社　フォーテル北海道

③ **運搬**
・株式会社　金昌

④ **乾燥**
・株式会社　金昌　で本乾まで施工し実需者へ納品

⑤ **実需者との連携**
・品種の選定・資材の購入・生育状況を定期的に視察し必要な場合にはアドバイス行い常にパートナーシップを図る
・納品した小麦の品質検査し時期作の作付けの参考に役立てる

⑥ **取扱数量**
・産　地：現状（令和4年産）54，867kg　→　目標（令和8年産）77，420kg
・実需者：現状（令和4年産）54，867kg　→　目標（令和8年産）77，420kg
※当該産地分の取扱数量
出荷量増を目指している実需者の販売戦略等を共有し増産の意識を継続していく



※　産地と実需者については具体的な名称を記載すること。
※　麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。
※　大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。
　なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。
※　産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割

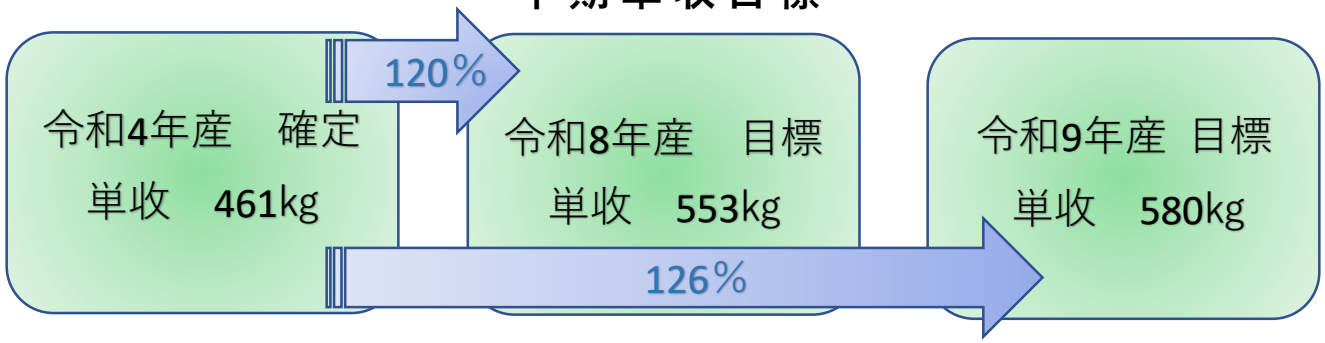
麦　類

推 進 体 制

【　農業者　合同会社　フォーテル北海道　】

・国産の安定供給の為に収穫量の増大を考え中期的な収量の目標を策定する
・農薬の使用量の削減を目指し減肥の推進を視野に入れ模索し推進に繋げる
・収量増が見込め収益性も含めて、より良い品種への切り替えも受け入られる体制を準備する
・他の生産者・他地域の生産者の営農についても情報交換を積極的に実施する

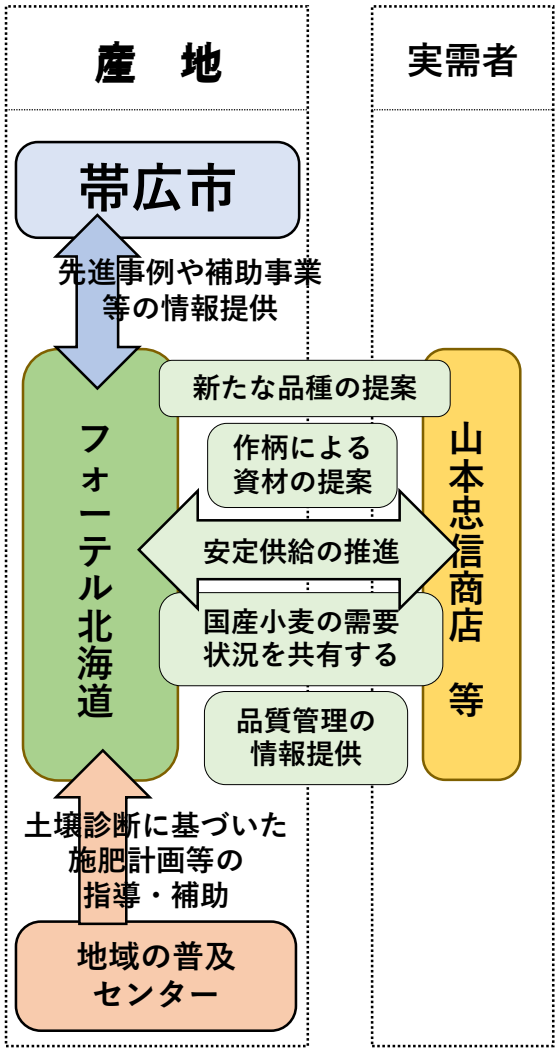
中 期 単 収 目 標



【　実需者　株式会社　山本忠信商店　】

・協議・情報交換をし収穫量及び品質の向上に向けた品種の選定を図る
・安定生産をおこなって行くうえで作付けの管理作業等の指導を実施する
・市町村、普及センターへの作付け技術の相談や地域の生産者を視察し情報交換などの交流も増やし営農への参考にしていく
・国産小麦の需要拡大に対して品質の管理・トレースも情報として共有する

推　進　体　制



※　産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。
※　取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。